

2006-10-7(土)

廃食油を燃料に

アレフの恵庭エコプロジェクト

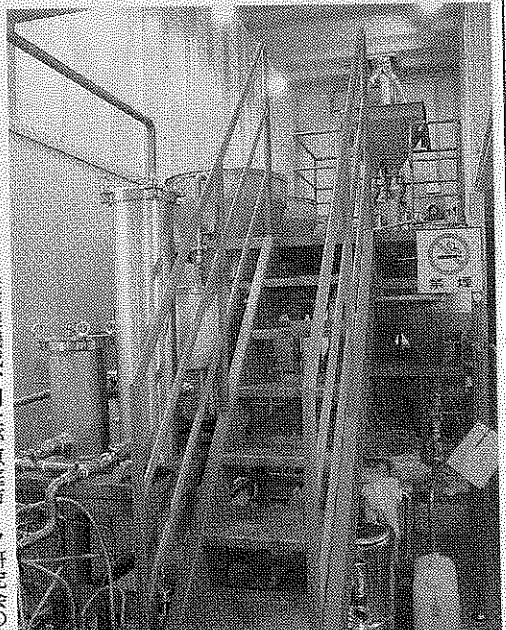
自社トラックなどに再利用

ハンバーグレストラン「びつくりドンキー」などを全国展開するアレフ(札幌市白石区菊水6の4の1)の26、庄司昭夫社長は、今月から一般家庭の使用済み植物油を回収してBDF(バイオディーゼル燃料)に再利用する取り組みを始めた。全社的な環境対策として進める「恵庭エコプロジェクト」の一環。自社製品と交換する形で廃食油を回収し、恵庭市内の自社プラントで燃料に再生する。道内を走るすべての自社配送トラックと恵庭市内の農場で使う農作業機械などの燃料をBDFに切り替えるのが目標だ。



同社は全社、全店舗の省エネルギー化と、新エネルギー導入を進める目的で2000年から恵庭エコプロジェクトを開始。恵庭を自社のリサイクル拠点と位置付けて同市牧場地区に施設を置き、研究活動をはじめ道内の店舗から出たごみの再利用を進め、自社独自の資源循環システム構築に取
専用の回収容器。廃食油は1リットルにつき自社製のトマトゼリー1個と交換する

菜種油の圧搾精製プラン



ドイツ製の菜種油圧搾精製プラント。BDFを作る廃食油燃料化装置とともに新工場に移設する

トは、ドイツのアイビートン社製(システム設計はデナムマックの財団法人フォルケセンター、タンクは檜崎産業製)で、現在の精製能力は日量50リットル、BDFを作る廃食油燃料化装置はセベック(本社・東京)が手掛け、日量400リットルの生産能力を持つ。それぞれ恵庭市北柏木町に建設中の新工場に移設する予定で、来年1月の新工場稼働に合わせて本格化する。回収先を確保する。

道内を走るすべての配送車、恵庭市内の農場で使う農作業機械、同社が恵庭市内に置く「ターマック」の送迎バス「こりん村」の送迎バスの燃料を賄うのが目標だ。軽油を全量に対してBDFの割合を20%とした場合、年間6万リットルが必要となる計算だが、不足分の3万リットルを一般家庭に求めるとしている。札幌市内と恵庭市内の店舗に回収ボックスを置き、1リットルにつき自社製品のトマトゼリー1個と交換する。一般廃棄物収集、処理の許可を持っていないので、あくまでも廃棄物ではなく「有価物として交換する」(貴室長)と話している。